

平成24年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成25年7月 1日(月) 午後1時～午後3時

第2回 平成25年7月 8日(月) 午後1時30分～午後3時45分

第3回 平成25年7月26日(金) 午前10時～午前12時

上田市教育委員会

目 次

I 趣旨		1
II 上田市教育行政評価懇話会		1
III 評価の方法		2
IV 評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
① 学ぶ意欲を育む授業づくり	学校教育課	3
② きめ細やかな個に応じた指導の充実	学校教育課	4
③ 学校給食に関する基本的な計画の策定	教育総務課	5
④ 地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	学校教育課	6
2 学校施設の耐震化推進と教育環境の整備		
① 小中学校施設耐震化事業	教育総務課	7
② 小中学校施設整備事業	教育総務課	8
③ 放課後児童クラブ施設整備事業	学校教育課	9
3 未来へつながる市民文化の創造と地域に伝わる文化遺産の継承		
① 市民参加と協働による文化芸術拠点の創造	文化振興課	10
② 子どもたちと文化芸術との出会いの場づくり	文化振興課	11
③ 史跡等整備事業	文化振興課	12
④ 博物館における学習機会の提供	博物館	13
4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
① 社会教育施設整備事業	生涯学習課	14
② 地域が学校を支援する事業	生涯学習課	15
③ 青少年体験活動等支援の充実	生涯学習課	16
④ 人権同和教育推進事業	生涯学習課	17
⑤ 生涯学習情報の一元化の推進	生涯学習課	18
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
① 生涯スポーツ活動の推進	スポーツ推進課	19
② 総合型地域スポーツクラブ支援事業	スポーツ推進課	20
③ スポーツ施設整備事業	スポーツ推進課	21

I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

II 上田市教育行政評価懇話会

平成24年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月1日、7月8日、7月26日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の6人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
宮原 信一	塩田公民館運営審議会委員、 元学校教育課指導主事、元第四中学校長	座長
廣川 岩男	上田市少年補導委員、 元教育参事、元清明小学校長	副座長
聲山 永子	上田市社会教育委員	
金子 和夫	上田市スポーツ推進委員会副会長	
中村 京子	市民による事業評価市民評価委員、 元上田市PTA連合会副会長	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授	

Ⅲ 評価の方法

平成24年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成24年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

平成24年度 事業評価シート

1-①

事業名	学ぶ意欲を育む授業づくり	担当課	学校教育課
------------	--------------	------------	-------

当初目標	「学力の向上」と「不登校児童生徒対策」の取組として、中学校4校に専科教員を配置し、中学校教員が小学校に出向いて授業を行うことで、中学進学の不安解消と学習意欲の向上を図ります。		
目標の達成状況	<p>数学の専科教員を中学校に4人配置し、中学校の教員が同じ中学校区の小学校8校へ出向き授業を実施しました。また、専科教員を配置していない中学校でも小学校へ出向き授業を行いました。</p> <p>アンケート調査では、「算数の勉強は好きか。」「算数の授業はよくわかるか。」の質問に対して、「好き」「わかる」とする回答が1回目より2回目のほうが多くなりました。このことから、中学校の教員の指導が児童の算数への興味意欲を高め、熱心な学習の取組につながったと考えます。</p> <p>また、中学校の教員と授業を通してふれあうことにより、中学校に関する情報を得て、中学進学への不安が減るなど中一ギャップ解消に一定の効果がありました。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	小中連携教員の配置 (4人)		10,679
	児童アンケートの実施 (2回)		0

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	中学校の教員が小学校に出向き授業を行い、小学校の児童の学力向上につながったか、中一ギャップの解消に効果的であったかどうか、今後も継続して実施し、結果を検証していく必要があります。
---------------	---

上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①学力は、基礎的知識・理解、それに基づいた表現力・思考力のほか、関心・意欲でとらえることができます。中学校教員が小学校に出向いて授業を行ったことで、児童の算数への興味意欲が高まっており、学習効果が発現しているものと評価します。</p> <p>②中学校教員が小学校へ出向き授業を行うことにより、中学校教員の専門性を生かして、小学校教員の指導力の向上につなげていくことが重要です。また、小中連携の研究会の活用や教育委員会の指導主事が積極的に関与することにより、指導力の向上を図っていく必要もあります。</p> <p>③専科教員の増員が望ましいことであるが、専科教員が配置された後、その配置がなくなっても、小中連携の取組を進めている学校があります。小中連携の定着を図りつつ、専科教員が配置されたことのない学校へ取組を拡大していく必要があると考えます。専科教員が少ないことから実現は難しいが、将来的には小学校においても、音楽、家庭科及び理科のように、算数における教科担任制の導入が理想的であると考えます。</p> <p>④中一ギャップの解消のためには、数学だけでなく様々な教科の教員が小学校に行くことが重要です。また、中学生を小学校に派遣し、中学校における学習内容や生活習慣などについて伝えるなど、小・中学生の交流が効果的であると考えます。</p>
	意見に対する考え方	<p>①②中学校の教員が小学校に出向き授業を行う取組を通じて、小・中学校の教員が相互に授業方法を研修し、お互いの授業改善や指導力向上につなげています。わかりやすい授業を行うことはとても重要なことであり、このことを他の教員にも広げていくことが全教員の指導力を向上させる方策の一つになると考えています。</p> <p>③今年度は数学の専科教員を中学校に4人配置し、中学校の教員が8校の小学校へ出向き授業を行いました。また、専科教員を配置していない中学校でも小学校へ出向き授業を行いました。今後も専科教員配置校の定着状況を見ながら、まだ取組を行っていない中学校へ配置するなど、小中連携授業を進めていきたいと考えています。</p> <p>④現在、中学校の教員が小学校へ出向いて行っている授業は、算数が中心ですが、ALTなど英語においても同様の授業を行っています。また、小・中学生の交流については、中学校説明会の日や文化祭を活用して体験入学や交流事業を実施しています。また、教員が小学校・中学校を相互に参観することも重要と考えています。</p>

今後の方針等	「学力向上」と「不登校対策」の課題に取り組むため、小中連携教員を継続して配置し指導するとともに、これらの成果を他の小中学校へも拡大していきます。
---------------	--

平成24年度 事業評価シート

1-②

事業名	きめ細やかな個に応じた指導の充実	担当課	学校教育課
当初目標	<p>心の教室相談員を36校に36人と特別支援教育支援員を35校に56人を配置し、不登校や特別な配慮が必要な児童生徒を支援します。加えて、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを各1人配置し、相談支援体制の充実を図ります。</p> <p>保育士が週1回程度を目安に小学校を訪問し、授業参観等を通じて教員との交流を図り、情報交換を実施します。</p>		
目標の達成状況	<p>「心の教室相談員」を36校に36人、「特別支援教育支援員」を35校に56人配置したことに加え、「巡回学習支援員」2人を中学校とふれあい教室に派遣することにより個に応じた支援を進めました。24年度より上田地域定住自立圏共生ビジョンの取組により、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを各1人配置し小中学校に派遣するとともに、教職員に対しては児童生徒を理解し、適切に対応するためのカウンセリングマインド研修会を4回開催し、421人の参加実績を得ました。</p> <p>また、1学期において、神科第二保育園から神科小学校へ保育士1人を週1回程度を目安に派遣し、教員との交流及び情報交換を行ったことにより、必要となる支援や教育等の共通理解が得られてきました。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	心の教室相談員事業	23,977	
	特別支援教育支援員事業	42,980	
	巡回学習支援員による学習支援事業	1,152	
	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー活用事業	2,850	
	不登校児童生徒に関わる研修会(4回)	90	
	保育士を小学校に派遣(幼保小の連携)	0	

総合評価	B		
今後の課題等	<p>不登校の児童生徒は減ってきているとはいえ、学校には配慮が必要な多くの児童生徒が在籍しており、個に応じた支援体制を整え継続した支援をしていく必要があります。また、家庭や児童生徒の課題が複雑化しており、関係機関等との情報交換や個別支援などについて一層の連携を図ることが重要です。</p> <p>子どもの成長・発達段階に応じた支援や教育が行えるよう、保育士と教員による情報交換等を継続的に実施していく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置により、相談支援体制が充実してきていると評価します。児童生徒が抱える課題を解決していくためには、教員がソーシャルワークの知識と力量を身に付けていく必要もあると考えます。</p> <p>②発達障害は早期発見・早期対応が非常に重要であり、発達相談センターとの連携により更に充実されることを期待します。なお、発達相談センターには、かなり多くの相談があると聞いており、対応に精一杯の状況であることから相談体制の充実が望まれます。</p> <p>③保育園からの就学相談が近年増えてきており、周知が進んできた結果であると評価します。現状把握が難しい私立幼稚園からの相談を増やしていくことが今後の課題であると考えます。</p>	
意見に対する考え方	<p>①県で配置しているスクールカウンセラーは、市内7中学校に配置され、管内の小中学校で児童生徒の相談にあたっています。市で配置したスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーは、学校を巡回し相談にあたっています。なお、家庭に大きな課題がある児童生徒への対応に当たっては、学校だけでなく福祉、医療、児童相談所などの関係機関と連携することが重要であると考えています。</p> <p>②学校と発達相談センターが連携して情報を共有することにより、発達障害のある児童の更なる早期発見・早期対応に努めていきます。</p> <p>③昨年の相談者数275人のうち、就学前の相談は137人になります。現在取り組んでいる幼保小中の連携を広めていくことで、私立の幼稚園からの相談も増やしていきたいと考えています。</p>		
今後の方針等	<p>不登校や特別な配慮が必要な児童生徒を支援するため、「心の教室相談員」及び「特別支援教育支援員」を引き続き配置していきます。幼児期から継続した支援体制を整え、保育・福祉など関係機関等と連携しきめ細やかな支援に努めます。</p> <p>上田地域定住自立圏共生ビジョンの取組により、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置します。また、児童生徒一人ひとりを理解し、適切な対応と指導力向上を図るため研修会を開催します。</p>		

平成24年度 事業評価シート

1-③

事業名	学校給食に関する基本的な計画の策定	担当課	教育総務課
------------	-------------------	------------	-------

当初目標	学校給食が引き続き児童生徒の育成に資するよう、食育面や安全面で十分な効果が発揮でき、経費面で実現可能な学校給食に関する基本的な計画を策定します。		
目標の達成状況	<p>学校給食に関する基本的な計画の策定に当たっては、特に運営について多方面からの検討を要するため、庁内検討機関として「学校給食運営方針検討会議」を設置しました。</p> <p>本会議を6回にわたって開催し、運営に係る基本方針の検討を進めてきました。更に検討すべき課題があることから、方針の決定や計画の策定には至りませんでした。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費	(千円)
	庁内調整会議の開催（1回）	0	
	学校給食運営方針検討会議の開催（6回）	0	

総合評価	C
-------------	----------

今後の課題等	学校給食が引き続き児童生徒の育成に資するよう、上田市における歴史的経過や現状を十分踏まえ、食育面、安全面及び経費面などの総合的な見地から計画を策定することが必要です。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①課題となっている事項について検討を重ね、基本的な計画が策定されることを期待します。</p> <p>②計画の策定においては、自校方式とセンター方式という調理方式のあり方が検討課題の中心になっていたと思われるが、調理方式の検討とは別に栄養教諭等による専門的な指導を充実するなど、各調理方式の特徴を生かした食育の推進に優先して取り組むことも考えられます。</p>
意見に対する考え方	<p>①学校給食運営審議会からの答申を受け、今後の学校給食のあり方について検討を重ねてきました。特に運営については、各地域における自校方式とセンター方式という調理方式の違いからはじまり、人員配置の問題や給食施設の更新にかかる財政的負担、さらには少子化にともなう児童生徒数の減少などの課題があります。そのため、すべてに当てはまる一律の結論や誰もが納得しうる結論を導き出せない状況にあります。しかしながら、老朽化が進む給食施設もあり、できる限り早期に方向性が出せるよう引き続き検討を進めます。</p> <p>②各学校は食に関する指導に係る全体計画を作成し、給食の時間や関連する教科等において食に関する指導に取り組んでいます。各給食施設においても、特別活動等における食育授業、職員による学校訪問、親子料理教室、地元生産者との交流給食又は親子試食会を行うなど、学校と連携して指導に取り組んでいます。食に関する指導の充実は、審議会答申の中核でもあることから、児童生徒を健全に育成していくために、引き続き学校・家庭・地域と連携して取り組んでいきます。</p>	
今後の方針等	学校給食の充実に向けて、上田市の学校給食に関する基本方針の決定に努めます。	

平成24年度 事業評価シート

1-④

事業名	地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	担当課	学校教育課
------------	----------------------	------------	-------

当初目標	<p>学校評価制度について広報等で市民にわかりやすくお知らせするとともに、各学校の評価結果と改善に向けての取組を学校ホームページ等に公表し、地域に開かれた学校づくりを進めます。</p> <p>さらに、学校におけるキャリア教育を支援するため、「上田市ものづくり・キャリア教育推進検討委員会」を2回開催するなど、関係部署との連携を図り、職場体験学習の場の拡大と地域への啓発を行います。</p>		
目標の達成状況	<p>学校評価は、制度について広報でお知らせしました。また、学校評価の結果をホームページや学校だより等でお知らせして地域への広報に努め、開かれた学校づくりにつなげています。学校に対しては、学校評価シート作成及びホームページ掲載等を支援したことにより、学校からの情報発信の増加につながっています。</p> <p>職場体験学習についての企業向けパンフレット5,000部と啓発用のぼり旗110本を作成し、地域への啓発に努めたことにより、企業等の理解と協力が得られてきています。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費	(千円)
	学校評価の実施（目標や評価項目等を設定し、その達成状況や取組について評価）		
	学校評価制度の説明（広報）、学校評価の公表（学校だより、学校HP等）		
	「上田市ものづくり・キャリア教育推進検討委員会」の開催		
	企業向けパンフレットや「のぼり旗」による地域への啓発	184	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>子どもたちが、社会人、職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められていることから、キャリア教育の一つである職場体験学習を充実させるため、企業や地域への周知と更なる理解を得ていくことが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①学校評価については、教育委員会の指導もあり、結果等を学校のホームページで統一的に公表されていることは評価できます。</p> <p>②学校評価の公表や学校へ行く週間の設定など、開かれた学校づくりにつながる様々な取組が行われています。更に開かれた学校づくりを進めていくためには、教員一人ひとりの意識改革を図るとともに、地域の方が気軽に学校へ行くことができる環境づくりを進めていく必要があると考えます。</p> <p>また、学校が所在する地域の特性に応じた方法（学校避難訓練時における消防団との交流や総合型地域スポーツクラブとの連携など）で、開かれた学校づくりを進めていくことも考えられます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①今後も学校目標達成に向けての取組について評価を行い、ホームページ等で公表していきます。</p> <p>②地域に信頼され、地域の教育力を活用しながら学校運営を進めるとい開かれた学校づくりの目的を教員一人ひとりが理解するよう努めるとともに、地域の人材に関する情報を収集し、更に積極的に開かれた学校づくりを進めていきます。</p> <p>また、地域の方が学校を訪問しやすいように、参観日・運動会・音楽会等のお知らせを地域に発信するよう努めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>職場体験学習の企業向けパンフレットや啓発用のぼり旗に加え、上田地域産業展において生徒の職場体験学習の発表作品を展示することで、地域への周知・啓発を図ります。</p>		

平成24年度 事業評価シート

2-①

事業名	小中学校施設耐震化事業	担当課	教育総務課
------------	-------------	------------	-------

当初目標	①耐震補強で対応する校舎等の耐震化を完了します。（北小学校・城下小学校・塩尻小学校・川辺小学校・神科小学校・豊殿小学校・東塩田小学校・浦里小学校・丸子中央小学校・菅平小学校・長小学校・武石小学校・第五中学校・菅平中学校 計14校25棟実施） ②屋内運動場の非構造部材耐震化を実施します。（城下小学校・浦里小学校・丸子中央小学校・長小学校・第五中学校 計5校5棟実施）		
目標の達成状況	①当初予定どおり、14校25棟の校舎・屋内運動場の耐震補強工事が完了し、これにより耐震補強で対応する建物の耐震化は終了しました。 ②屋内運動場5校5棟は非構造部材の耐震化（主に照明・天井材・ガラスの落下防止）を同時施工しました。 ③次年度実施予定の屋内運動場非構造部材耐震化工事の実施設計を実施しました。（9校9棟）		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①14校25棟の校舎・屋内運動場の耐震補強工事の実施		263,342
	②屋内運動場5校5棟は非構造部材耐震化も同時施工		
	③次年度計画の屋内運動場非構造部材耐震化の実施設計（9校9棟）		4,331

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	耐震補強で対応する校舎等の耐震化は平成24年度で完了したが、改築を予定している校舎等についても、早急に施設整備を行う必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見 ①今後の耐震化事業は、改築による対応と非構造部材の耐震化になるが、できる限り早期に完了されることを期待します。
	意見に対する考え方 ①屋内運動場の非構造部材耐震化は、平成26年度に完了する予定です。改築を予定している校舎等についても、計画的に事業を進めていきます。
今後の方針等	屋内運動場の非構造部材耐震化を計画どおり平成26年度に完了します。改築による耐震化を予定している校舎等については計画的に実施するとともに、補強への切り替えも検討するなど、児童生徒の安全を最優先に考え、平成27年度までに耐震化を完了するよう努めます。

平成24年度 事業評価シート

2-②

事業名	小中学校施設整備事業	担当課	教育総務課
------------	------------	------------	-------

当初目標	小中学校施設について計画的な整備を進めます。 ①塩田中学校改築事業（外構工事 25年3月竣工予定） ②傍陽小学校改築事業（外構工事 25年3月竣工予定） ③清明小学校屋内運動場改築事業（25年3月竣工予定） ④清明小学校プール改築事業（実施設計を25年3月末完了を目途に実施） ⑤第二中学校改築事業（実施設計を25年3月末完了を目途に実施） 小中学校施設・設備について計画的な改修を行い、また、老朽箇所等への日常的な営繕の充実を図ります。		
目標の達成状況	①塩田中学校外構工事は3月に竣工、事業が終了しました。 ②傍陽小学校外構工事は3月に竣工、事業が終了しました。 ③清明小学校の屋内運動場建設は3月に竣工しました。 ④清明小学校のプール改築事業の実施設計は3月に完了しました。 ⑤第二中学校改築事業の実施設計業務委託・地質調査業務委託は3月に完了しました。 ⑥学校施設の老朽箇所・故障箇所等の日常的な営繕工事を行い、教育環境の充実に努めました。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	①塩田中学校改築事業（外構工事）	103,908	
	②傍陽小学校改築事業（外構工事）	26,954	
	③清明小学校屋内運動場改築事業（本体工事）	359,751	
	④清明小学校プール改築事業（実施設計業務委託）	2,415	
	⑤第二中学校改築事業（実施設計・地質調査業務委託）	45,118	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	耐震補強工事に対応できない施設については、総合的な観点から改築・改修などの整備方針を決定し、計画的かつ早急に施設整備を行う必要があります。 また、大規模な営繕工事は夏休み中に集中するため、計画的に実施する必要があります。
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見 ①児童生徒が安心して学ぶことができる場を確保するため、学校施設の整備が計画的に進められることを期待します。
意見に対する考え方	①特に大規模な改築改修については、施設の建設年度や老朽度・学校要望等を総合的に判断して優先順位をつけ、計画的に事業を進めます。
今後の方針等	一般の営繕工事については学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を最優先に考えながら実施し、安全で快適な教育施設整備に努めます。

平成24年度 事業評価シート

2-③

事業名	放課後児童クラブ施設整備事業	担当課	学校教育課
------------	----------------	------------	-------

当初目標	冷房装置のない放課後児童クラブに、県の補助を受けてエアコンを整備し、児童の保育環境の整備を図ります。（設置要望がある放課後児童クラブにエアコンを設置予定）		
目標の達成状況	<p>市に設置要望があった13館のすべてについてエアコンの設置が完了しました。放課後児童クラブ26館及び学童保育所の分室2館への設置状況は、新規設置が13館、既設置が10館、要望なしが4館となりました。残る1館については、国庫補助の対象とならない小規模児童クラブであるため、独自にこども未来財団から補助を受けて施設で設置しました。この結果、設置要望があったすべての施設への設置が24年度で完了しました。</p> <p>このことにより、特に夏休みに1日中施設で過ごす児童等の学習環境や生活環境の整備が図れるとともに、持参した弁当を衛生的に保管できるなどの効果が得られました。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	放課後児童クラブ13館に冷房装置を設置	3,091	
	(放課後児童クラブ環境改善事業として県からの補助2,054千円)		

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>児童館・児童センターについても、11館のうち9館において冷房装置の設置要望があります。児童館等については、補助制度が適用されないが、熱中症や食中毒のリスクを軽減するため、速やかに冷房装置を設置する必要があります。</p> <p>また、朝日が丘児童館は昭和56年以前の建築であり、耐震基準を満たしているかについて懸念があることから、耐震診断を実施する必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①放課後や学校休業日における児童の成長や働く保護者の子育てを支援するために、放課後児童クラブは必要不可欠な施設であり、施設設備の整備が積極的に進められていることを評価します。</p> <p>②学校と異なる環境に違った動きを見せる児童や様々な事情を抱える児童がいる中で、指導員が日々の保育において奮闘されている実態があります。充実してきた施設を有効に活用し、児童を健全に育成していくためには、指導員に任せきりにするのではなく、家庭・学校・地域が一体となって運営を支えていく必要があると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①24年度は放課後児童クラブ13館に冷房装置を設置しましたが、同様に25年度は児童館・児童センター9館に設置し、環境整備を図ります。</p> <p>また、朝日が丘児童館の耐震診断については、25年度中に実施する予定です。</p> <p>②要支援児童が増加傾向にある中で、必要に応じ、学校が主体となって保護者、指導員、教育委員会等が出席する支援会議を開催して、児童の指導の方向性の協議などに努め、指導員の保育に係る日頃の悩みに対応するように心がけています。今後も指導員の支援に努めていきます。</p>	
今後の方針等	老朽化又は狭隘な施設を中心に計画的な整備を進めていきます。		

平成24年度 事業評価シート

3-①

事業名	市民参加と協働による文化芸術拠点の創造	担当課	文化振興課
------------	---------------------	------------	-------

当初目標	交流・文化施設利用者団体協議会の発足に向け準備会と協議を行い、協議会の骨格を決定します。また、市内文化団体との懇談を行い、連携に向けた環境づくりを進めます。		
目標の達成状況	大版画企画展及び文化対談、落語の開催は、文化団体との協力・連携体制を築く足掛りとなり、更に交流・文化施設建設への機運を高めることができました。しかしながら、利用者団体協議会の運営方針や取組内容等については、引き続き検討することになりました。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	美術団体の協力による「森工房 大版画の世界」の開催（7月）	2,490	
	上田市文化芸術協会との懇談会（11月）	0	
	利用者団体協議会準備会の協力による「文化対談、落語」の開催（3月）	2,000	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	交流・文化施設の開館に向けて更に機運を高めるとともに、利用者団体との連携をより具体的に進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①交流・文化施設は、市の様々な努力もあって完成が近づいています。施設の完成に対する市民の期待は非常に高いことから、丸子・真田・武石地域も含めた市域全体で身近に感じられる運営が行われることを期待します。</p> <p>②交流・文化施設が上田市の象徴として、市内外から多くの人に足を運んでもらうためには、まずは市内の幼保小中のすべての子どもたちに来館してもらう必要があると考えます。また、子どもたちが施設を継続的に来館できるよう、社会科見学に組み込むなど学校との連携も必要であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①交流・文化施設は、市民が施設を利用するだけでなく、運営管理の面でも積極的に参加してもらい、協働による市民とともに歩む施設を目指しています。また、事業展開においては、ワークショップなどの参加・体験型事業を行うとともに、学校や福祉施設、公民館などでの出前公演を行うアウトリーチ事業に力を入れていく計画です。</p> <p>②交流・文化施設は、賑わいや活力を生み出す新たな拠点であるとともに、育成を基本理念の根底に掲げ、次代を担う子どもたちを良質な文化的環境の中で育むことを目指しています。幼保小中との連携を進め、鑑賞事業や参加・体験事業等を通じ、子どもの頃から施設を利用する機会を創出していきます。</p>	
今後の方針等	市民参加と協働による交流・文化施設の運営管理を目指し、利用者団体協議会の設立準備を進めます。		

平成24年度 事業評価シート

3-②

事業名	子どもたちと文化芸術との出会いの場づくり	担当課	文化振興課
------------	----------------------	------------	-------

当初目標	市民や団体と連携し、子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出します。 ①「芸術家学校派遣事業」6回実施 ②「能楽講座」8月実施 ③「子ども文化講座」9月実施 ④「子ども文化祭」2月実施 ⑤新たな芸術鑑賞機会の創出		
目標の達成状況	①学校芸術家派遣事業を7月、9月、10月、11月、12月に7回（小学校7校）開催し、約1,670人の児童が、和太鼓・落語・金管四重奏・オペラを鑑賞し、児童が文化芸術を身近に感じる機会となりました。 ②上田城跡能にあわせ8月に能楽講座を実施し、児童生徒81人が能楽体験に参加（うち21人が舞台体験にも参加）しました。古典芸能に親しむ機会になりました。 ③民謡・民話をテーマに子ども文化講座を9月に開催し、小中学生等約70人が鑑賞しました。伝統芸能に触れる機会になりました。 ④子ども文化祭を2月に開催し、約600人が舞台発表・展示発表を行いました。舞台経験、相互交流、運営参加を通して自己表現力を高める機会になりました。 ⑤新たな芸術鑑賞機会として、劇団四季ミュージカル公演を小学6年生を対象に行い、市内及び近隣市町村の児童約1,900人が鑑賞し、優れた演劇に感動していました。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	芸術家学校派遣事業（7回）	648	
	能楽講座（1回）	200	
	子ども文化講座（1回）	97	
	子ども文化祭（1回）	220	
	劇団四季こころの劇場（2回公演）	440	

総合評価	A
-------------	----------

今後の課題等	青少年に一流の芸術に触れてもらい、豊かな情操を育んでもらうためには、長期的な展望のもと、継続した取組が必要です。また、今後は、文化芸術活動の新たな拠点となる交流・文化施設を活用した芸術鑑賞・体験機会を創出していくことが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①新たな取組として劇団四季ミュージカル公演が実施されており、芸術鑑賞機会の一つとして定着することを期待します。 ②子ども文化講座などへの参加者を増やすことが難しい中で、学校芸術家派遣事業はすべての子どもたちを対象としたアウトリーチ活動であり、子どもたちが一流の芸術に触れることで、将来への希望をもつなどの教育的効果があります。この事業が継続され、より多くの学校で実施されることを期待します。	
	意見に対する考え	①劇団四季ミュージカル公演は、24年度が初めての開催であり、25年度も引き続き開催する予定であることから、多くの学校が参加できるよう早い時期から学校に周知していきます。また、今後も継続して開催できるよう検討していきます。 ②学校芸術家派遣事業については、様々な分野の芸術家をより多くの学校へ派遣できるよう、日程調整に努めます。また、今後は交流・文化施設のアウトリーチ事業と連携を図りながら、芸術家の派遣を更に充実していきます。	
今後の方針等	交流・文化施設での青少年育成事業とも連携した取組を今後検討し、上田を訪れる芸術家によるアウトリーチ活動の充実や同施設を活用した芸術鑑賞・体験機会の創出に努めます。		

平成24年度 事業評価シート

3-③

事業名	史跡等整備事業	担当課	文化振興課
------------	---------	------------	-------

当初目標	史跡等の整備を推進し、無形民俗文化財の保護・継承を図ります。 ①上田城跡整備関係機関との協議 ②上田城跡二の丸東側及び本丸土塁発掘調査 ③上田城跡資料収集調査の報告 ④史跡上田城跡検討委員会の開催 ⑤信濃国分寺跡の史跡公園用地の取得 ⑥信濃国分寺跡発掘調査 (1,000㎡) ⑦県宝旧倉沢家井戸の覆い屋の改修及び県宝信濃国分寺本堂修理工事補助事業の実施		
目標の達成状況	①策定した計画を、国、県及び城跡関係者に報告・説明するとともに 広報やマスコミを通じ広く周知を図りました。 ②二の丸東側の発掘調査を行い、撤去された石垣位置の確認等の成果が得られました。本丸土塁の発掘調査は時期尚早のため、今回は実施しませんでした。 ③隅櫓復元のための資料収集を行い報告集を作成しました。 ④今後の整備方針及び次期委員選出を調整する必要があるため、検討委員会の開催には至りませんでした。 ⑤信濃国分寺跡史跡公園用地の取得は、所有者の承諾が得られなかったため実施に至りませんでした。今後交渉を継続します。 ⑥信濃国分寺跡の発掘調査 (国分寺尼寺南側1,000㎡) を実施しました。 ⑦県宝旧倉沢家の井戸覆い屋及び門袖塀の改修及び県宝信濃国分寺本堂修繕補助を実施しました。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	信濃国分寺跡整備事業 (発掘調査)	8,000	
	上田城跡整備事業 (発掘調査)	7,500	
	「史跡上田城跡保存管理計画」等の周知とパンフレット等の増刷	300	
	上田城跡説明板製作	120	
	「上田城史料調査報告書」の刊行	280	

総合評価	B	
今後の課題等	①上田城跡については、公園の利便性に配慮しながら、策定した保存管理計画・整備基本計画に基づいた整備を進めていくことが必要です。 ②信濃国分寺跡については、住宅地と隣接しているため、住民への説明・報告を随時実施し、周囲の理解と協力を得ながら整備を進めていくことが必要です。	
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見意見に対する考え方	①史跡等整備事業の実施に当たっては、住民の理解と予算の確保が必要不可欠です。地域住民の理解と協力を得ながら、引き続き整備が進められることを期待します。 ②史跡等の整備を推進するとともに、史跡等整備事業に対する住民の理解を深めるため、子どもたちにも関心を持たせるための取組 (例：各年における上田城跡の整備状況を子どもたちに知らせ、市民会館を利用した際に見学してもらうなど) を進めることも考えられます。	
今後の方針等	①上田城跡及び信濃国分寺跡の整備・活用に当たっては、各々の「整備基本計画」における基本方針に地域住民と連携を図っていくことを掲げています。史跡整備に対する理解を深めるとともに、史跡活用についても主体的に参加してもらうよう、広報広聴の機会を充実させ、整備を推進していきます。予算面では、国・県とも協議を行い、補助等の活用を検討していきます。 ②子どもたちに関心を持たせるための取組は、郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、郷土の歴史を学ぶよい機会になると考えます。史跡整備への関心を高め、理解を深めてもらうために、発掘現場の見学や整備状況の説明等の機会を設けていきます。また、希望に応じて学校への出前講座等を実施していきます。	

平成24年度 事業評価シート

3-④

事業名	博物館における学習機会の提供	担当課	博物館
------------	----------------	------------	-----

当初目標	郷土の文化・歴史、偉人の業績をテーマとした特別展や講座を開催し、地域の文化・歴史に触れる機会を創出します。（市立博物館6、山本鼎記念館9、信濃国分寺資料館9、郷土博物館1、ともしび博物館8）		
目標の達成状況	特別展・企画展として、上田市立博物館で「重文指定された天体望遠鏡の特別展示」、「松平氏時代の名品」、信濃国分寺資料館で「権力者と富裕者の幽世」、山本鼎記念館で「三瓶光夫、朴再英作品展」や「児童生徒美術展上小地区展」などを開催するとともに、上田市内博物館めぐりスタンプラリーを実施するなど、地域の文化・歴史に触れる機会を創出しました。（上田市立博物館7、山本鼎記念館12、信濃国分寺資料館10、丸子郷土博物館1、ともしび博物館10の企画展、特別展、講座を実施）		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	企画展「松平氏時代の名品」（会期中入館者6,969人）	352	
	特別展「権力者と富裕者の幽世」（会期中入館者1,447人）	482	
	三瓶光夫・朴再英作品展（会期中入館者3,951人）	313	
	上記以外に、各施設において企画展、講座等を開催		

総合評価	A
-------------	----------

今後の課題等	お城と戦国武将ブームによる相乗効果から、上田城並びに真田氏ゆかりの上田地域を訪ねる多くの方々が市立博物館に入館しています。 展示については、徐々にリニューアルを実施しているが、最新の情報をよりわかりやすく解説し、リピーターを含めた来館者の増加を図る必要があります。 また、各施設において、郷土の歴史や文化の継承と学習機会の充実を目指し、講座を継続的に実施しています。各講座とも受講定員を上回るものが多い状況です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①特別展・企画展や講座について、様々な情報媒体を用いて周知が図られていることを評価します。子どもたちをはじめとする多くの市民が博物館等を利用され、郷土の歴史・文化や多くの功績を残した上田市出身の先人について学ばれることを期待します。 ②博物館をはじめとする各施設は毎年一定の来館者数を確保できており、引き続き企画展の開催や展示の工夫が図られることを期待します。	
	意見に対する考え方	①企画展や講座等の一層の周知を図っていきます。また、加舎白雄、赤松小三郎や山極勝三郎についてはコーナーを設けており、その他の先人についても展示の機会を考えます。 ②櫓門では火縄銃の疑似体験のできるコーナーを設けるとともに、モニターによる解説を行っています。これらの一層の充実を図り、よりわかりやすい展示を目指します。	
今後の方針等	常設展、展覧会、講座等の内容を市民のニーズにあった魅力あるものとし、各施設へのリピーターの増加と各種講座等への新たな参加者の増加に努めます。		

平成24年度 事業評価シート

4-①

事業名	社会教育施設整備事業	担当課	生涯学習課
------------	------------	------------	-------

当初目標	城南公民館の建替工事を継続（工芸棟等を整備）し、年内に竣工させます。		
目標の達成状況	<p>城南公民館の新館（本館部分）が24年4月9日に開館し、使用を開始したほか、工芸棟等の工事が完了した12月14日には竣工式を執り行いました。</p> <p>その後、植栽や看板設置等、残された外構工事を行い、24年度予定していたすべての工事が年度内に完了し、社会教育・生涯学習の拠点となる施設整備を計画どおり進めることができました。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	城南公民館建替工事（建築主体・電気設備・給排水設備 等）		22,972
	城南公民館建替工事（旧館解体）		5,985
	城南公民館建替工事（外構）		25,258

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>豊かな生涯学習社会の実現に向け、老朽化等が進む社会教育施設について、引き続き計画的な整備を行い、生涯学習環境の充実を図っていくことが必要です。</p> <p>①西部公民館の建替 ②神川地区公民館の耐震化 ③上田図書館の整備</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①社会教育・生涯学習の拠点となる公民館などの社会教育施設の整備が計画的に進められることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①今後も社会教育施設全体の整備について検討し、計画的に整備を進めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>①西部公民館については、用地及び施設規模等の整備計画について検討を進めます。</p> <p>②神川地区公民館については、24年度実施した耐震診断結果に基づき、補強工事の実施について検討を進めます。</p> <p>③上田図書館については、場所を含めて整備に関する検討を進めます。</p>		

平成24年度 事業評価シート

4-②

事業名	地域が学校を支援する事業	担当課	生涯学習課
------------	--------------	------------	-------

当初目標	地域の教育力の活用により、新しい公共（参加と協働）による学校づくりができるよう、地域が学校を支援する取組（キャリア教育支援を含む）を塩田地域・浦里地域以外の学校への拡大を図ります。		
目標の達成状況	<p>塩田中学校における「しおだっ子応援団」や浦里小学校における学校支援に加え、第三中学校において、西部公民館の学校支援ボランティア育成講座「花と庭づくり教室」受講生が環境整備の支援を行いました。長小学校においては、真田中央公民館の通学合宿にあわせ、大学生ボランティアが学校から要望のあった学習支援を試行しました。南小学校においては、読み聞かせボランティアが25年1月に発足し、児童の読書活動を支援する試みが始まりました。</p> <p>真田地域において、長・傍陽・本原の各小学校の学校支援に向け、24年度は研究段階として本原小学校をモデル校にした学習支援の準備を進めました。</p> <p>また、上野が丘公民館において、夏休み期間中、子どもだけで生活する家庭の子どもたちを公民館に通わせて、大人が学習や遊びを通して子どもの居場所をつくる「夏休みわいわい塾」を小学生を対象に初めて開催しました。</p> <p>この他にも、西小学校において、学習支援やクラブ活動支援の動きが始まっています。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	地域による学校支援の実施（しおだっ子応援団ほか）	124	
	キャリア教育支援の実施（のぼり旗作成）	184	
	支援要望のある学校とコーディネーターとしての役割が期待される公民館との協議の実施	0	
	学社連携に関する懇談会の開催・参加、チラシの作成	0	
	学校支援に関する市内学校参観（公民館関係職員）	0	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>地域の教育力の活用により、新しい公共（参加と協働）による学校づくりができるよう、地域が学校を支援する取組を更に拡大していくことが必要です。</p> <p>また、支援が長期になるとボランティアが減少する傾向となることから、地域住民が主体的かつ継続的に学校支援ボランティアに参加できるよう、組織のあり方を検討し、組織の活性化を図っていくことが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①学校と地域が連携して学校づくりを進めていくためには、コーディネーターの育成が必要不可欠であり、また、学校支援を主体的かつ継続的に行うことができるボランティアの育成も必要であると考えます。	
	意見に対する考え方	①コーディネーターの育成については、公民館等の職員のみならず、地域住民も対象として育成に努めます。あわせて、今後もボランティアの育成に努めます。	
今後の方針等	<p>学校が求めている支援のニーズを把握するため、学校との情報交換の機会を増やし、社会教育機関と学校の情報の共有や信頼関係の構築に努めるほか、学校支援に意欲を持っている地域の人材を発掘し、ボランティアの育成を図ります。</p> <p>また、「市民による事業評価」の論議を踏まえて施策を推進します。</p> <p>上田市ものづくり・キャリア教育推進検討委員会との連携により、中学生の職場体験学習を受け入れる地域の事業所の増加について支援します。</p>		

平成24年度 事業評価シート

4-③

事業名	青少年体験活動等支援の充実	担当課	生涯学習課
------------	---------------	------------	-------

当初目標	育成会活動への支援の見直しを行い、家庭ではできないさまざまな体験活動が、地域の分館や育成会で新たに20以上実施されるようにします。 また、地域で行う自然体験活動等の指導者養成講座を開催し、活動を支援します。		
目標の達成状況	24年度より新たに実施した「体験活動支援事業補助金」により、29の育成会で特色ある体験活動事業が実施されました。 また、6月から9月にかけて地域青少年育成指導者養成講座を5回開催（延べ57人参加）しました。なお、受講者有志12名を「体験活動リーダーズバンク」へ登録し、今後地域や学校へ派遣する準備を進めています。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	上田市子ども会育成連絡協議会「体験活動支援事業補助金」を29育成会に交付	290	
	地域青少年育成指導者養成講座の開催	78	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	青少年育成に最も必要な子どもたちの野外での体験活動の機会や参加が減少していると同時に、家庭環境による体験格差が拡大しています。 また、親世代が自然体験等の経験不足から、子どもへの指導が不可能になりつつあります。今後も、地域と行政はこのような課題を克服するための方策を検討する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①地域と家庭の教育力が低下しているといわれる中、各育成会が中心となって子どもたちに体験学習等を実施していることは意義があります。しかし、育成会が提供する企画はたくさんある一方、各家庭の考え方はさまざまで、参加は少数にとどまる傾向にあります。育成会活動が今後効果をあげていくためには、学校や地域と連携して、ニーズに合った事業展開が必要ではないかと考えます。	
	意見に対する考え方	①子どもたちが地域の行事や育成会等の事業に参加することと、保護者の意識との間には密接な関係があり、家庭環境の差による子どもたちの体験格差が拡大しています。今後、学校・家庭・地域の一層の連携を図りながら、青少年育成活動の拡充に努めていきます。	
今後の方針等	各育成会で特色ある体験活動が実施されるよう、引き続き支援を行うとともに、自然体験活動等の指導者を養成し、地域で独自に行われる子どもたちを対象とした体験活動事業の拡大を図ります。 また、「市民による事業評価」の論議を踏まえて施策を推進します。		

平成24年度 事業評価シート

4-④

事業名	人権同和教育推進事業	担当課	生涯学習課
------------	------------	------------	-------

当初目標	人権に関する市民意識調査などを実施し、今後の人権同和教育のあり方の検討を行った上で、上田市人権同和教育の基本方針を改定します。 講演会は250回以上・参加者18,000人以上、研修会は530回以上・参加者17,000人以上を目標に開催し、より一層の人権意識の高揚を図ります。		
目標の達成状況	人権同和教育では、人権同和教育の基本方針に基づき、多様な機会に学校、地域、団体、企業等全体で講演会を260回開催し18,802人参加、研修会を543回開催し17,187人参加、それぞれ年間目標値を達成しました。 人権に関する市民意識調査を5月に実施しました。この結果を踏まえ、これまでの「人権同和教育の基本方針」を見直し、「上田市人権施策基本方針」に一本化し、25年3月に第一次改定版として策定しました。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校人権同和教育の推進	3,999	
	地域人権同和教育の推進	4,827	
	社会教育関係団体等人権同和教育の推進	826	
	企業人権教育の推進	200	
	解放子ども会事業	750	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	学校や地域等において、人権教育や人権啓発活動等に積極的に取り組めるよう事業の推進と支援を行いました。自治会で実施される人権懇談会については、参加者の確保が課題として挙げられていることから、テーマ設定や手法等に工夫を凝らし、継続的な取組を行います。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①人権同和教育については、内容や手法等の工夫を図り、引き続き地道に粘り強く実施されることを期待します。	
	意見に対する考え方	①人権に関する市民意識調査の結果では、多くの方が講演会や研修会による啓発活動は効果的であると回答しており、これまでの学校や地域における取組を継続していきます。内容や手法については更に検討を重ね、地道で粘り強い人権教育・啓発活動を進めていきます。	
今後の方針等	24年度に策定した「上田市人権施策基本方針」に基づき、継続的な取組を行います。25年2月に差別事象が発生したことを受け、これを教材化し、このような事象が二度と起こらないよう様々な場における人権教育・人権啓発活動を充実します。		

平成24年度 事業評価シート

4-⑤

事業名	生涯学習情報の一元化の推進	担当課	生涯学習課
------------	---------------	------------	-------

当初目標	庁内関係情報の集約方法の確立を図り、生涯学習情報の一元化（ワンストップ・サービス化）を推進します。		
目標の達成状況	23年度に実施した上田市ホームページにおける生涯学習課及び9公民館ホームページの一部リニューアルに引き続き、生涯学習情報の一元化に向けた第一段階として、公民館等の利用者団体情報を上田市ホームページへ掲載しました。生涯学習情報の集約システムについては、検討を進めている段階であり、構築までには至りませんでした。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	公民館と連携したプロジェクトチームによる研究・検討	0	
	上田市ホームページへの公民館等の利用者団体情報の掲載	0	

総合評価	C
-------------	----------

今後の課題等	第二段階として、庁内の各部局が提供している多種多様な情報を一元的に収集・整理し、体系的な生涯学習情報として、市民に積極的かつ容易に提供できる仕組づくりを、市長部局の進める情報プラザ構想とも調整・連携を図りながら、引き続き検討を進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①生涯学習情報に対するニーズに応えるため、一元化について市全体で長期的に取り組まれることを期待します。	
	意見に対する考え方	①今後も生涯学習情報の一元化について全庁で取り組み、市民への効果的かつ効率的な情報発信を進めていきます。	
今後の方針等	生涯学習情報を一元的に収集・整理し、市民に提供する仕組の構築に向けた検討を、市長部局と調整しながら引き続き行い、計画的に段階を踏みながら、情報の一元化（ワンストップ・サービス化）に向けて作業を進めていきます。		

平成24年度 事業評価シート

5-①

事業名	生涯スポーツ活動の推進	担当課	スポーツ推進課
------------	-------------	------------	---------

当初目標	<p>「する」「みる」「ささえる」など多様なスポーツ情報の発信の取組として、ホームページにおけるスポーツ団体の紹介や情報紙の発行を実施し、市民のスポーツに親しむ機会の拡大を図ります。</p> <p>体育協会の組織統合後のスケールメリットや各地域の特色を生かした事業を推進するため、統合後の加盟団体の調整など、体育協会の組織充実の支援を図ります。</p>		
目標の達成状況	<p>多くの市民がスポーツに親しむ機会の拡大のため、ホームページのほか情報紙「上田スポーツプレス」及び「広報うえだ」によりスポーツ団体の活動内容やスポーツイベントの情報提供に努めました。</p> <p>行政とスポーツ団体等が連携、協働してスポーツイベントを開催し、スポーツ団体の核となる体育協会の組織充実を図ることができました。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「上田スポーツプレス」へスポーツ活動団体の情報掲載（4回）	200	
	「広報うえだ」へ情報掲載（63回）	0	
	体育協会との協働スポーツイベント（34事業）	15,695	

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>より多くの市民がスポーツに親しむ機会の拡大のため、スポーツに関する情報発信を行う必要があります。</p> <p>体育協会の組織充実を図り、各地域の特色を生かした事業を推進するための支援が必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①最もスポーツに取り組んでいる世代は女性高齢者であり、逆に働き盛り世代にある男性は、仕事上の忙しさを理由に、十分にスポーツに取り組めていない実態があると推測します。このことを踏まえ、スポーツに親しむ市民を増やし、生涯スポーツ活動を推進していくためには、スポーツをすることの意義（例：スポーツをすることで健康や体力の維持・向上を図れることなど）や気軽にスポーツができる機会などについて、工夫を図りながら情報発信していく必要があると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①健康の保持・増進や体力の向上、また、自らの生活を豊かで充実したものにするため、スポーツ団体等と連携を図りながら、スポーツになじみの薄い人なども含めた多くの市民がスポーツの楽しさを味わうための動機付けやきっかけづくりとなる事業を開催します。</p>	
今後の方針等	<p>市民が気軽にスポーツに親しめるよう情報発信に努めるとともに、行政とスポーツ団体等との連携を図るため、核となる体育協会との連携、協働を更に進めます。</p>		

平成24年度 事業評価シート

5-②

事業名	総合型地域スポーツクラブ支援事業	担当課	スポーツ推進課
------------	------------------	------------	---------

当初目標	市内5つの総合型地域スポーツクラブとの合同会議を年4回開催し、活動内容を周知するための情報提供（広報うえだへの掲載やチラシの配布）や合同で開催する事業を企画し、総合型スポーツクラブの支援を図ります。		
目標の達成状況	<p>スポーツクラブ設立後5年間の活動補助金を交付し、クラブの運営を支援しました。（クラブUSC）</p> <p>各スポーツクラブの活動を情報紙「上田スポーツプレス」及び「広報うえだ」で紹介するとともに、スポーツクラブ案内チラシを作成し会員増加（216人）を支援しました。</p> <p>スポーツクラブと行政との協働イベント「うえだスポーツナビ」を開催し、スポーツに親しむ機会の拡大とスポーツクラブの周知に努めました。</p> <p>「上田スポーツナビ」を協働イベントとして開催したため、スポーツクラブとの合同会議が1回のみとなりました。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	うえだ総合型地域スポーツクラブUSC補助金（20年～24年）		2,000
	「上田スポーツプレス」へスポーツクラブの情報掲載（4回）		200
	市内総合型地域スポーツクラブ案内チラシの作成		25
	スポーツクラブ合同イベント「うえだスポーツナビ」の開催（2回）		0
	スポーツクラブ合同会議の開催（1回）		0

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>スポーツクラブの活動がスポーツに気軽に親しめる場としての役割を担っていることを広く市民に周知していく必要があります。</p> <p>各スポーツクラブが個々に活動するだけでなく、情報の共有化を図るなど、連携した啓発活動やスポーツイベント等を開催し、支援していく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①市内の5つのスポーツクラブが連携を図ることで、市域全体に各クラブの特徴を生かしたサービスの提供が図られ、多くの市民がスポーツに親しむ機会の拡大につながっていくことを期待します。	
	意見に対する考え方	①多種多様化している市民のスポーツに対するニーズに対応するため、また、スポーツに親しむ機会の拡大のため、総合型地域スポーツクラブの特徴を生かしながら、合同イベント等を開催します。	
今後の方針等	各スポーツクラブと行政との連携、協働を一層図り、情報交換のための合同会議の開催やスポーツイベントの開催、会員増加につながる広報活動等を行い、総合型地域スポーツクラブの継続した運営のための支援を継続します。		

平成24年度 事業評価シート

5-③

事業名	スポーツ施設整備事業	担当課	スポーツ推進課
------------	------------	------------	---------

当初目標	将来的な体育施設設備の基本構想、計画（仮称）の策定に向けて、検討会等で検討を行い、基本骨子をまとめます。 市民の森わしば山荘のあり方等についての方針を策定します。 体育施設使用料金等の統一を図り、周知期間を設定して、新たな使用料金等を住民等に周知します。		
目標の達成状況	①内部の検討会で、将来的な施設整備の方針の基本事項を検討しました。 ②地元との検討会で、市民の森わしば山荘施設のあり方をまとめました。 ③使用料金等の統一は、関係部局との協議の結果、全市的に行う施設使用料金等の見直し時に行うことになりました。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	将来的な施設整備について検討会を開催（6回）	0	
	わしば山荘のあり方等の検討会を開催（7回）	0	
	※スポーツ施設の整備改修状況（2,000千円以上の事業） 自然運動公園総合体育館シャワー設備改修工事（3,245）、依田窪プールサイドシート張替修繕工事（*25年度に繰越 7,300）、ふれあいさなだ館源泉深井戸ポンプ入替工事（2,625）		

総合評価	C
-------------	----------

今後の課題等	①市民が安心して利用できる施設整備の推進 ②将来的な施設整備計画 ③スポーツ施設使用料金等の統一		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①市民が快適に安心して利用できるよう、スポーツ施設の整備が計画的に進められることを期待します。	
	意見に対する考え方	①スポーツ施設整備計画の将来的な策定に向けた検討を進めていきます。	
今後の方針等	①当面必要となる施設整備の修繕改修計画を作成し推進します。 ②検討した基本事項を骨子として、事務段階での将来的な施設整備計画案を作成します。 ③地元でまとめた市民の森わしば山荘施設のあり方に基づき、今後の整備計画等を検討します。 ④全市的に行う施設使用料金等の見直し時に、スポーツ施設使用料を統一し、あわせて減免等の取扱いを改定します。		